

あなたも高教組へ

2面・高校生平和集会プレ企画
・「学んで楽しい」



第496号
2024年
3月15日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町1-4
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

物価高騰から生活まもる 賃上げ・底上げを! 24国民春闘決起集会



「歴史的物価高騰に見合った賃上げ・底上げ! ストライキの力で労働組合の存在感を示そう!」と24国民春闘静岡県決起集会が、2月18日に静岡市と沼津市で、2月25日に浜松市で開催されました。

静岡市の青葉公園で行われ、24国民春闘をたたかおうと呼びかけ。各労組・団体からのリレートークでは参加者全体で「おう!」と賛同の声をあげて集会を盛り上げました。

その後、集会宣言を決議し、大幅賃上げなどをアピールしながら繁華街をパレードしました。

「県東部決起集会」は沼津駅南の沼津市中央公園で行われ、約30人、25日開催の「県西部決起集会」は、アクトシティ浜松北側の東ふれあい公園に約80人が集まりました。

パレードでは小雨のなか、ラップ調のシュプレヒコールに元氣よく応え、市民にアピールしました。

「今年もまた」ですか。入学選抜・採点にあつた管理職から注意がありました。「昨年の、千葉県のような採点ミスが起きないように、今年度も気を引き締めて業務を行ってほしい。」

主張

「今年もまた」ですか。入学選抜・採点にあつた管理職から注意がありました。「昨年の、千葉県のような採点ミスが起きないように、今年度も気を引き締めて業務を行ってほしい。」

昨年、茨城県が千葉県に変わっただけで、管理職に質問しました。「千葉県ではどのようなミスがあつて、何に気を付けたいのか、何ですか?」全県の問題となつたのは、単なる個人の

ミスではなく、制度の問題だからではないですか?」管理職の返答は、「県教委からは詳しい内容の説明はなく、特別の指示はありません」とのこと。

高校入試採点の危うさⅡ

ミスをなくし、公正性を確保するためには...

本校は小規模校で、かつ裁量枠入試に人手を取られるので、採点は実質1日だけとなります。記述だらけの採点に、私の担当教科の教員は3人しかいません。勤務時

933件の採点ミスが発覚しました。大学教授などを委員とする検討会議の提言を受け、千葉県教委は解答方法を記述式とマークシート式の併用型とすることや、

試問題の大幅な変更と長時間に及ぶ採点業務が原因と考えられます。また、本県とは異なり、授業の合間に採点業務を行うことにも無理があります。茨城県では、

ト式になりました。大学入学共通テストでは「採点ミスを完全になくすところまで至るには限界がある」「自己採点の不一致を大幅に改善することは困難」などの

22年入試から、選択式問題を自動採点して効率化を図り、採点ミスが多発した記述式の問題をほぼなくしました。

隣の愛知県では今年度から、全てマークシート式になり、採点ミスも減ると見込んでいます。千葉県では茨城県と異なり、他県の例を挙げ、あなたも気を抜いていないか、原因であるのか、他県の仲間にも、本県の教員にも失礼です。採点ミスを、教員の「集中力の欠如」に矮小化するのはなく、システムの問題として見直すことこそが、県教委の役割なのではないでしょうか。

ビキニ水爆被災70年 3・1ビキニデー

1954年3月1日、南太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で行われたアメリカの水爆実験に遭遇し、死の灰を浴びた焼津のマグロはえ縄漁船第五福竜丸、乗組員23人が被災し、やけど、頭痛、嘔吐、眼の痛み、歯ぐきからの出血、脱毛など放射線による急性放射線症状を呈しながら焼津に帰港、その年の9月23日に無線長の久保山愛吉さんが亡くなり、高知県など他県の漁船1000隻、マーシャル諸島の住民も多数被災した「ビキニ事件」。今年70年の節目を迎えました。

共同代表の高草木博氏が主催者報告。「米国の意を受けた日

本政府は200万ドルの「慰謝料」と引き換えに被害の調査を打ち切り、第五福竜丸乗組員の医療費と見舞金などに充てられたが、他のすべての漁船の乗組員は、救済措置もないうまま放置されている」

高知県の太平洋核被災支援センター副代表・岡村啓佐さんは、「高知でのビキニ事件の取り組みは、1985年、山下正寿氏と高校生たちによる調査にさかのぼる。その調査をもとに86年、山原健二郎衆院議員が政府に資料の公開を迫ったが、開示されなかった。ところが2013年にNHKが米国でビキニ事件の資料を発見し公開したことで、政府は被災船資料の開示

に追い込まれた。資料の分析の結果、第五福竜丸以外のマグロ漁船でも被災していた事実が明らかになり、元マグロ漁船員と遺族は、事実を隠し続けていた政府に対して国家賠償請求訴訟を提起。労災認定申請など裁判闘争は形を変えて今も続いており、現在も病魔に苦しむ元漁船員たちにはなんの救済措置もされていない。

ビキニ事件は、第五福竜丸を矢面に出すことで延べ1000隻に及ぶマグロ漁船などの被災を意図的に隠蔽した、戦後最大の未解決事件である」と報告。

各地のとりくみ交流では、「エバークリーン静岡」として島田樟誠高校の生徒が登壇し、平和をつくる地域での活動、地元の戦争の歴史、模擬原爆「パンプキン」による島田空襲の被害を語り継ぐ活動や「ばらの祈り」を朗読する高校生

の活動などを紹介し、「語り継ぎ部」になる決意を表明、3月末に行われる全国高校生平和集会の開催を案内しました。



理由から記述式の導入を見送った経緯があります。公正な採点のために皆が腐心しています。千葉県では茨城県と異なり、他県の例を挙げ、あなたも気を抜いていないか、原因であるのか、他県の仲間にも、本県の教員にも失礼です。採点ミスを、教員の「集中力の欠如」に矮小化するのはなく、システムの問題として見直すことこそが、県教委の役割なのではないでしょうか。

境活動家の武本匡弘さん(日本原水協代表団として派遣)が現地からオンラインで参加。父親がマーシャル沖で被災し若くして亡くなった下本さんは、「ロングラップ島は核実験による汚染がひどくいまだに鳥に帰る事ができず、頭蓋骨がなく、手足の短い赤ちゃんなどが生まれる。被災した人と怒りや悔しさを共有できた」と語り、武本さんも「気候危機が新たに立ち上がり、核の難民から気候難民にもなってしまう、事実を知る必要がある」と報告しました。



被災70年2024年3・1ビキニデー集会
主催 日本原水協静岡支部実行委員会・被災70年3・1ビキニデー実行委員会



3月10日(日)、藤枝市生涯学習センターで「エバーグリーン」第20回企画上映と市田真理さんと高橋生との朗読セッション

事実を学び、自分事として語り継ぐこと

全国高校生平和集会in焼津 プレ集会



「我が友、原子力」は、1964年に公開された映画。戦後、原子力発電の推進が叫ばれ、原子力発電所の建設が進められてきた。この映画は、原子力発電の危険性を訴え、平和を求めた人々の思いを伝える作品として紹介された。

焼津中央高校合唱部による「歌声に祈りを込めて」「オペラ「カルメン」より「ハバナラ」「闘牛士の歌」。

多高知の漁船の被爆が歴史から抹殺される危機感から立ち上がった高知の幡多高校生ゼミナールの活躍。創作劇「語り継いでい

「花は咲く」「ふるさと」の合唱が続き、その力強さ、美しさに心を大きく揺さぶられました。

焼津高校演劇部による朗読劇「ばらの祈り」。昨年からの朗読に取り組み、上演を重ね、DVD制作にも尽力しました。

市田真理さん(第五福竜丸展示館学芸員)と高校生による当時の人々の手記や手紙の朗読。

「自分事(じぶんごと)」として捉え、語られる台詞は重く観客に届きました。

「映画「我が友、原子力」(2020年 渡辺謙監督作品 57分上映)。

福島第一原発事故でトモダチ作戦に従事した米空母乗組員の証言、第五福竜丸以外にも多くの漁船が被曝した事実が隠された理由、蛍光塗料としてラジウムを使用する時計を製造する女性労働者にガンなどの健康被害が多発した事件、被爆後の広島と長崎で生き延びた人々が放射線研究のためのモルモット扱いされ、以後の核実験でも米軍兵士がモルモットにされた事実。



動、ビギニ被災者の闘い、怒りの国家賠償訴訟、甲狀腺ガンにおかされるチェルノブイリ、福島の子供たち、子どもたちの声などが紹介され、胸がつかまります。

市田真理さん(第五福竜丸展示館学芸員)と高校生による当時の人々の手記や手紙の朗読。

こう、私達のその先へ。満蒙開拓という名の侵略は、子どもの頃、家族で満蒙開拓団として渡り、残留孤児となった島田市在住の佐野陽子さんをお招きして行った講演会をもとに部員が創作。

「自ら『語り継ぎ部』を宣言する市田さんの思いが高校生たちにしつかり伝わっていくことが実感できる楽しい企画でした。名もない人たちの声に耳を澄ますこと、世界をよりよく変えられると希望を持って語り継ぐこと、そのために学ぶこと(清水東高校 山口良二)

「学ぶって、楽しい」「生きるって、楽しい」「みんなのミライ楽校」を

「我が友、原子力」の朗読、書道、素晴らしがあったし、一人ひとり自分の言葉でコメントもよかった。平和を願う若者の思いがよく伝わってきました。

リード発言として「藤枝みんなのミライ楽校」の横溝一樹さん(元静岡市小学校教諭)から、「学ぶって楽しい、生きるって楽しい」があふれる学び舎のお話を聞き、悩みや不安、希望など語り合いました。

「学ぶって、楽しい」「生きるって、楽しい」「みんなのミライ楽校」を

「しぜんまなび」は、山・川・畑などで自由に遊ぶのが、その中で自然の理に心が向かう学びの時間。

「そと学び」は、養蜂場や工場を見学して専門家が、その場で質問と答えを交わったり、駄菓子屋や図書館へ行ったり。

「プロジェクトアワー」では、自分で探求したいものを見つけ、答えのない問いを立ててとりくみ、興味や関心の幅を広げ、仲間と協働して進める。駄菓子屋をやったり、サッカーのゴールを作ったり。カラー作りも材料だけ用意して、作り方は自分たちで考える。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

「学ぶ」ということは、やってみることをやり、知りたいことを知ること、新しい自分になり、世界が広がる楽しいこと。子どもたちにもそう思ってもらいたい時、今学校をつくるしかないと思った。

